和泉そぞろ

izumisozoro

和泉の文化芸術の殿堂！久保惣記念美術館へ
-伏屋一族、国学の祖・契沖の足跡を辿りながら-

和泉中央界隈はニュータウンとして大発展を遂げていますが、実は古墳時代の遺跡や江戸時代の大庄屋の墓など、古い歴史や文化を伝えるオールドタウンだったりします。それらを巡りながら、桃山学院大学、いずみの国歴史館、久保惣記念美術館など和泉の学問、文化、芸術を体感しましょう！

❶和泉シティプラザ

平成15年(2003)にオープンしました。客席数664席を有する『弥生の風ホール』をメインに市立図書館や生涯学習センターなどが入居する公共複合施設です。和泉市民の学習意欲の醸成、活力ある地域社会の実現とまちづくり活動を担う人材育成として『いずみ市民大学』も設置されています。

❷伏屋一族の墓（石尾墓地）

代々、万町村の庄屋を務めた伏屋（ふせや）一族の墓があります。太田亮『姓氏家系辞書』によれば伏屋一族は豊臣秀吉の家臣であった伏屋飛騨守一安に始まるといいます（諸説あります）。17世紀後半の当主・伏屋長左衛門重賢（1638?～1693）は文人としても知られ、俳諧師の西山宗因（井原西鶴の師匠）と交流して高野山を案内しました。また伏屋の分家筋で酒造業を営んでいた伏屋重寓の養子に入ったのが伏屋素狄（1747～1811）で、漢方医から蘭学医となり、腎臓に墨汁を注入する実験で腎臓の機能が濾過作用であることを解明しました。伏屋一族は江戸期の和泉を代表する名士・名族といえるでしょう。

❸石尾山弘法寺

高野山真言宗の寺院で、山号は「石尾山」といいます。寺伝では「槇尾山」「松尾寺」と共に「泉州の三尾」と呼ばれ、大同年間(806～810)に弘法大師・空海が槇尾山登頂の際に道場として開創され、弘仁年間(810～824)に地元豪族の伏屋長者の寄進によって一宇が建立されたといいます。また脇仏の地蔵菩薩は「福徳地蔵」と親しまれ、このお地蔵さまの功徳で万金を持つ長者が大勢、当地に住み、これが「万町村」の名の由来となったという言い伝えもあります。

❹国学発祥の地碑

江戸時代中期の真言宗僧侶・契沖（1640～1701）は一時期、万町村の庄屋・伏屋重賢屋敷内にあった「養寿庵」に寄寓していました。契沖の祖父は加藤清正の家臣であり、伏屋一族も秀吉の家臣の子孫であったというので、親交があったのかも知れません。契沖は伏屋が所蔵する膨大な和漢書を読み、梵語（サンスクリット語）の研究を深めたといいます。その後、契沖は徳川光圀公の依頼を受けて『万葉代匠記』を執筆しました。その偉大な業績から『国学の祖』と褒め称えられ、石尾中学校前に記念碑が建立されています。

❺桃山学院大学

明治初期に来日した英国人宣教師ワレン師（1841～1899）は大阪・川口居留地で伝道活動を行いました。明治17年（1884）には聖三一教会に三一小学校と三一神学校を開設し、これが桃山学院のルーツです。明治23年（1890）、高等英学校を設立し、現在の天王寺区筆ヶ崎町（桃山界隈）に移転。その後、明治28年（1895）に桃山学院と改称しました。明治35年（1902）には大阪で最初の私立中学校として桃山中学校を開校。大正時代には、のちのニッカウヰスキー創業者で「日本のウイスキーの父」と呼ばれる竹鶴政孝が一時期、化学の教員として雇われています。これは竹鶴の妻リタが桃山中学校校長のローリングス師の夫人と親しく交流していたことがキッカケでした。戦後の昭和34年（1959）にはプロテスタント日本宣教100周年を記念して桃山学院大学を開学。平成7年（1995）にキャンパスを和泉市に移転しました。

❻いずみの国歴史館

和泉市の国史跡である池上曽根遺跡や和泉黄金塚古墳、泉北丘陵窯跡群（陶邑）、貴重な古文書や絵図などの歴史的資料、文化財の調査研究や展示公開を行っています。本物を見せることにこだわり、復元模型を置かないといった試みを行なっていて、弥生時代や古墳時代の土器（本物）に触れる体験コーナーや、関連書籍を集めた資料学習室もあります。館のロビーにある日本最大級の須恵器の大甕（近隣の窯跡より出土）も見ものです。

［開館時間］午前10時から午後5時まで（入館は午後4時30分まで）　［休館日］月曜日（祝日の場合は開館）、祝日の翌日（土日の場合は開館）、年末年始、その他展示入れ替え期間（不定期）　［入館料］無料（特別展は有料の場合あり）　［お問い合わせ］0725-53-0802（電話）

❼唐国池田山六・九号墳

平成4年（1992）に街開きした住宅・産業都市「トリヴェール和泉」（和泉中央駅界隈）の造営工事中に発見された古墳で、宮ノ上公園に石室が移築されました。左が六号墳で右が九号墳です。須恵器の壺や高杯、鏃や小刀の鉄製武器、管玉などの装身具が出土しました。

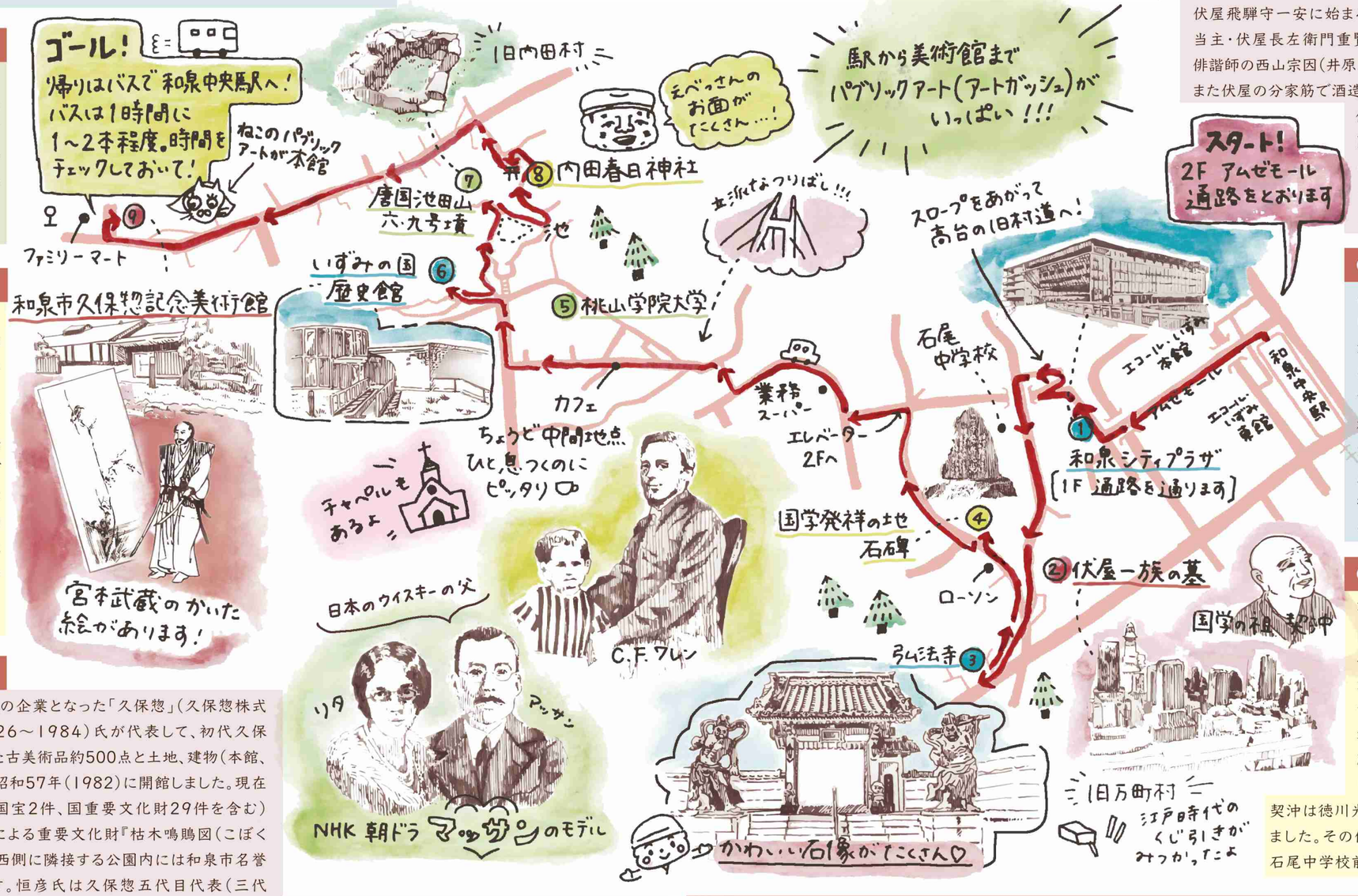
❽内田春日大社

内田村（現・内田町）の氏神さまです。明治22年（1889）4月1日、和泉郡の寺田村、箕形村、唐国村、内田村が合併して和泉郡「北松尾村」が発足しました。名称の由来は松尾谷の北側に位置するので北松尾村なのですが、中世、松尾谷の一帯は奈良春日大社の荘園でした。これは長寛2年（1164）に藤原忠通（ただみち）の子・九条兼実（かねざね）が父の供養のために春日大社や興福寺に寄進したのが始まりといいます。その由縁で松尾谷界隈は春日神社が多いエリアとなっています。

❾和泉市久保惣記念美術館

内田町で代々、綿業を営み、泉州有数の企業となった「久保惣」（久保惣株式会社）の代表・三代久保惣太郎（1926～1984）氏が代表して、初代久保惣太郎氏、歴代の代表者が収集してきた古美術品約500点と土地、建物（本館、茶室）、基金3億円を和泉市に寄贈し、昭和57年（1982）に開館しました。現在は所蔵品数も増えて、約11000点（国宝2件、国重要文化財29件を含む）となっています。とくに宮本武蔵の筆による重要文化財『枯木鳴鵙図（こぼくめいげきず）』は有名です。また美術館西側に隣接する公園内には和泉市名誉市民の久保恒彦氏顕彰碑があります。恒彦氏は久保惣五代目代表（三代惣太郎の弟）で、和泉市久保惣記念美術館の名誉館長として文化芸術振興に尽力し、さらに産業団地「テクノステージ和泉」を推進し、産業振興の面でも多大な功績を残しました。

［開館時間］午前10時～午後5時（入館は4時30分まで）
［休館日］月曜日（祝日の場合は開館、翌平日休館）、陳列替期間
［お問い合わせ］0725-54-0001（電話）



まち歩きマップ「和泉そぞろ」は「いずみ市民大学」の「観光おもてなし学科」の資料として作成されました。掲載されている情報は令和2年（2020）12月現在のものです。和泉のまち歩きのさいにご利用してください。

プロデュース｜陸奥賢［観光家／大阪まち歩き大学学長］　コーディネーター｜宝楽陸寛［NPO法人SEIN／コミュニティLab所長］　イラスト&マップ制作｜田中保帆　協力｜いずみ市民大学観光おもてなし学科受講生（糸瀬友子／駒澤重信／Toshiko.A／MicKey／むらかみあきら／山出弘）

この印刷物は、1,000部印刷し、印刷単価は一部28円です。